

# ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2015年2月

## ISO/TC 61/SC 2(機械的性質)分野の最近の動向

ISO/TC61/SC2は、プラスチックの機械的性質の試験方法に関する規格の制定・改正を担当し、現在までに70の規格を発行し、8のプロジェクト（規格開発）が進行中である。SC2傘下で活動中の作業部会（WG）を表.1に示す。なお、WG6及びWG8は、SC9国内委員会が担当しているため、本稿では取り上げない。

表.1 TC61/SC2のWG

WG	幹事国	名称
1	ドイツ	静的力学特性
2	マレーシア	硬度及び表面特性
3	アメリカ	耐衝撃性
4	アメリカ	動的力学特性
5	イギリス	温度依存性
6	ドイツ	試験片寸法
7	韓国	疲労及び破壊靱性
8	アメリカ	データの標記方法

\*SC2の幹事国：スペイン

2014年9月22日～9月26日にUSAのホノルルにて第63回TC61国際会議（年次大会）が開催され、SC2関係では各WGの会議及びSC2全体会議が開催された。本稿では、国際会議での議論を中心にTC61/SC2の最近の動向についてWG別に概要を報告する。

### 1. 静的力学特性（WG 1）

**ISO 899-1/DAmD 1**（クリープ特性の求め方—引張クリープ／追補）：本追補はエージングの影響を説明したものである。FDAmDの投票を実施することが承認された。

**ISO 899-2/DAmD 1**（クリープ特性の求め方—曲げクリープ／追補）：FDAmDの投票を実施することが承認された。

**ISO 178**（曲げ試験）追補：当初提案した変更について、工業界として、いくつかの問題点に直面したために、本件は取下げとなった。

**ISO 527**（引張試験）について、当WGのコンビナーから、将来についての調査報告があり、ブレーンストレーミングが行なわれた。

### 2. 硬度及び表面特性（WG 2）

**WD 19278**（計装化押し込み硬さの試験方法）：日本提案である本提案は、RRT（ラウンドロビンテスト）を実施中であるとの報告を行なった。

RRT実施中は、「(1年間の予定で)時計を止める。」ことをISO 中央事務局にて実施した。

日本より「往復平面磨耗試験」に関する新規提案を行なった。今後、NWIPに向けて、追加の検討を行うこととなり、予備段階として承認され登録された。

**ISO 17541** (スクラッチ誘起損傷の定量評価) : FDIS投票が行われ、日本、ドイツ、イタリアが反対したが、他のPメンバー国の過半数賛成により承認され、2014年9月1日にIS発行となった。

### 3. 耐衝撃性 (WG 3)

**DIS 13802** (振り子式衝撃試験機の検証/改正) : DIS投票では、日本はコメント付の賛成投票を行った。ホノルル会議では、投票時のコメントについて議論した結果、コメントを反映させたドラフトを作成し、FDIS投票に進めることとなった。

### 4. 動的機械特性 (WG 4)

ホノルル会議でWG4の会議は開催されなかった。

### 5. 温度依存特性 (WG 5)

**ISO 306** (ビカット軟化温度の測定/改正) : 2013年11月15日に、ISが発行された。

**ISO 75-3** (荷重たわみ温度の求め方: 高強度熱硬化性積層版及び長繊維強化プラスチック) **改正** : 当WGのコンビナーは、提案されている改訂のために、共同実験のための試料提供と試験室としての参加を要請した。この規格の改訂のために、いくつかの異なる材料についてのRRTが必要である。

### 6. 疲労及び破壊靱性 (WG 7)

**WD 18485** (接着された柔軟なラミネート材の剥離試験による破壊靱性の求め方) : イタリアの本提案は、CD案が作成中であり、今後CD投票が行われる予定である。

チェコより、「平面応力衝撃条件の下での破壊靱性の求め方に関する試験方法」に関する新規提案があった。PWIに登録された。次段階に進むにあたり、日本もフォローすることとなった。

また、「プラスチック・J-R曲線の求め方」については、プロジェクトが一旦取消となったが、再度チェコより提案があり、PWIに登録されることとなった。上記案件と併せて、日本もフォローすることとなった。

以上